

第39期 中間報告書

2013年6月1日 ▶ 2013年11月30日

Contents

株主の皆様へ
株主アンケート結果報告
株式の状況／会社概要

セグメント別の概況
トピックス

ピックアップ
決算概要(連結)



代表取締役社長 森 吟二

■ 景気の緩やかな回復基調を受けて、増収増益となりました。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の当期上半期の業績は、緩やかな回復基調にある国内経済を背景に、研究開発分野・産業分野での研究開発投資・新規設備投資に持ち直しの兆しが見られる中、当社が推進する成長戦略の効果も徐々にあらわれ始めた結果、前年同期比で増収増益となりました。

当社は、「光ソリューション・カンパニー」として弛まめ技術革新と価値ある製品の提供により、持続的な成長と企業価値の最大化に最善の努力をいたす所存でございますので、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主アンケートについて

前回第38期報告書で実施いたしました「株主アンケート」にご協力を賜り、誠にありがとうございました。株主様から頂戴いたしました貴重なご意見は、今後の経営及びIR活動に活かしてまいります。

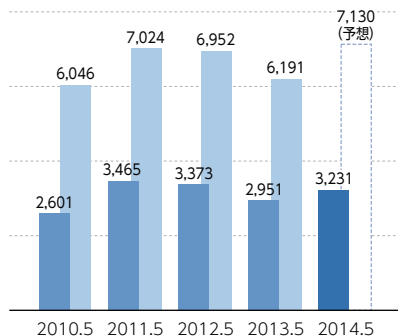
なお、今回も「株主アンケート」を実施させていただきますので、皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

⇒ 前回の「株主アンケート」結果報告はP.4にございます。

売上高

32億 31百万円
(前年同期比9.5%増)

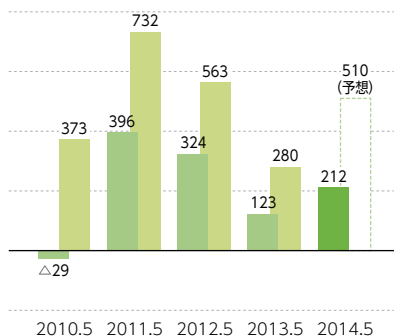
■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



経常利益

2億 12百万円
(前年同期比71.7%増)

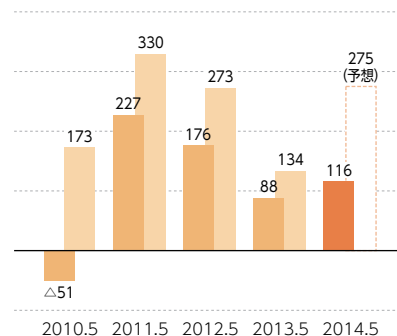
■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



四半期(当期)純利益

1億 16百万円
(前年同期比31.4%増)

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



Q 上半期が増収増益となった 主な要因は何ですか？

A 国内経済の緩やかな回復基調を背景とした需要の増加に加え、ユニット製品の拡販等の成長戦略効果があらわれ始めました。

当社グループが関連する大学・独立行政法人向け研究開発分野においては、期初は研究開発予算の執行が緩やかな動きとなっておりますが、上半期後半には需要の増加傾向が見られました。民間企業向け研究開発分野及び産業分野においては、新規設備投資は依然として慎重な動きではありますが、バイオ業界や医療業界向けの光学要素部品や防衛産業分野向けの光学システム製品の需要が増加いたしました。また、当社が推進するカタログ製品の充実、レンズユニット製品の展開強化等の成長戦略の効果も徐々にあらわれ始めた結果、前年同期比で増収増益という結果となりました。

Q 通期の見通しについて お聞かせください。

A シグマ光機グループの総合力を活かして世界の成長市場への展開を加速させることで通期業績計画の達成を目指してまいります。

下半期も引き続き「カタログ販売の強化」、「レンズユニットへの注力」、「光ソリューションの提供」という当社グループの総合力を活かした成長戦略を推進して、国内外の研究開発市場・産業市場等へ積極的に展開し、通期業績計画の達成を目指してまいります。国内市場においては、緩やかな景気回復を背景に、3月期決算に向けた需要期を迎え光学要素部品、光学システム製品の需要拡大が見込まれます。また海外市場においては、2014年4月に欧州の販売拠点となる「OptoSigma Europe」の開設、日・英・中文のグローバルカタログの発刊とウェブカタログの統合を予定しており、グローバルな営業体制を強化してまいります。

▶ グローバルブランドの統一について

今般、当社のグローバル戦略の一環といたしまして、2014年1月1日を以てグローバルブランドを「OptoSigma」（右記：ブランド・ロゴマーク）に統一いたしました。

今後、海外マーケットはもとより、国内マーケットにおいても、「光」に対してあらゆるソリューションを提供することを事業ミッションに掲げ「OptoSigma」ブランドにて事業を展開してまいります。

今後、当社グループの全従業員は、「OptoSigma」ブランドのグローバルマーケットにおける認知度と企業価値の向上に向けて、総力を挙げて取り組んでまいります。

なお、国内のレーザ用要素部品のリーディングカンパニーとして長年ご愛顧いただいております「シグマ光機株式会社」の会社名に変更はございません。

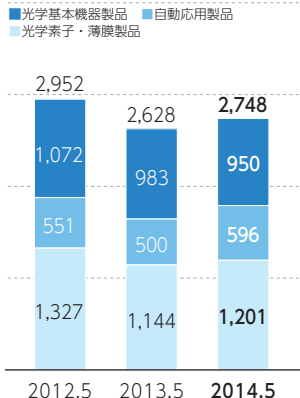


02 セグメント別の概況

▶ 要素部品事業

売上高(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)



4.5% 増

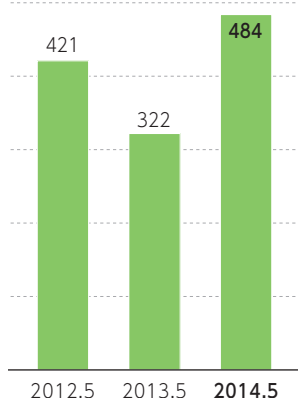
(前年同期比 1億1千9百万円増)

大学・独立行政法人向け研究開発分野は上半期後半に需要の増加傾向が見られた結果、堅調に推移しました。民間向け研究開発分野及び産業分野においては、携帯端末市場に関連する一部業界の設備投資等に回復の兆しが見られる中、手動位置決め製品は低調に推移しましたが、レーザー加工機や検査装置向けの自動位置決め製品及び光学素子製品は横ばいで推移いたしました。又、バイオ・医療業界、防衛関連業界向けの光学素子製品・自動位置決め装置は堅調に推移いたしました。

▶ システム製品事業

売上高(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)



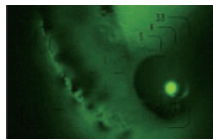
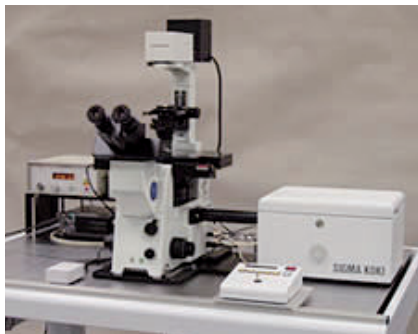
49.9% 増

(前年同期比 1億6千万円増)

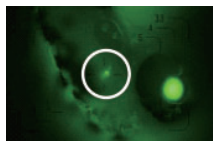
大学・独立行政法人向け研究分野及び民間向け生物・医療・バイオ関連製品の需要が増加しております。民間向け研究開発分野は、光学測定装置と観察光学系システム製品等の需要は横ばいで推移しております。産業分野での検査・製造装置の組み込み用途については、防衛関連業界向けは堅調に推移いたしました。又、携帯端末市場に関連する半導体業界向け検査装置用やモバイル用FPD業界向けレーザー加工機用のユニット製品等の需要にも回復の兆しが見えております。

03 ピックアップ

● 遺伝子機能を探る新しいツール「IR-LEGO」



レーザー照射前



レーザー照射後

「IR-LEGO (Infrared Laser-Evoked Gene Operator)」とは、顕微鏡下で赤外線レーザーの照射により単一の細胞を加熱して任意の遺伝子の発現を任意の時間に誘導する技術です。現在最も注目される再生医療分野においても、遺伝子機能の研究手法として期待されています。この技術は、独立行政法人産業技術総合研究所の研究チームによって世界初の技術として確立されましたが、当社はその研究チームと共同で「IR-LEGO」の実験装置を開発いたしました。

当社は、光学要素部品や光学装置の開発等で、最先端の研究機関の基礎研究を支えています。

【写真提供】

独立行政法人産業技術総合研究所 弓場俊輔博士、基礎生物学研究所 亀井保博博士

第38期報告書で実施させていただきましたアンケートにつきまして、お寄せいただきましたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

株主様からのご質問

Q 御社の技術や製品について、もっと分かりやすく教えてほしい。

A 当社の製品や固有技術につきまして、事業報告書やWebサイトでご覧いただけるように内容の充実を図ってまいります。今回は、当社が開発に携わった、バイオ・サイエンス研究分野において遺伝子の機能を解析するレーザーを活用した新しい顕微鏡技術として注目の高い「IR-LEGO」について、P.3「ピックアップ」に製品情報を掲載いたしました。

Q 今後の海外展開についてどのような施策を予定していますか。

A P.2にご覧いただきますように、今般グローバルブランドを「OptoSigma」に統一して、グローバルマーケットでの一層の認知度向上を図ってまいります。今後も、国内外の主要製品展示会への出展等を積極的に行うとともに、2014年4月には、日・英・中文のグローバルカタログの発刊とウェブカタログの整備、欧州販売拠点となるOptoSigma Europe S.A.S.の営業開始を予定しています。

ご意見・ご要望のご紹介

- 業績向上に努めて、安定配当という形で株主に還元してください。
- 素晴らしい技術があると期待していますが、知名度が低いのが残念です。
- 株価が割安すぎるので、個人株主にPRする施策を検討してほしい。
- 株主アンケートの回答率が3%は低い。株主ももっと関心を持たなくては。

トピックス | 05

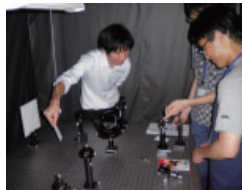
当社が当期上半期に行った活動について、いくつかご紹介いたします。これら以外にも、多くの技術セミナーや学会発表、イベント出展、地域貢献活動等を行っています。

「先端レーザー科学教育研究コンソーシアム(CORAL)」講義実施

(7月1日～4日：シグマ光機株式会社)



講義風景



干渉計の実験風景



レーザー加工の実験風景

「日中ものづくり商談会@2013上海」出展

(9月11日～12日：上海西格瑪光机有限公司)



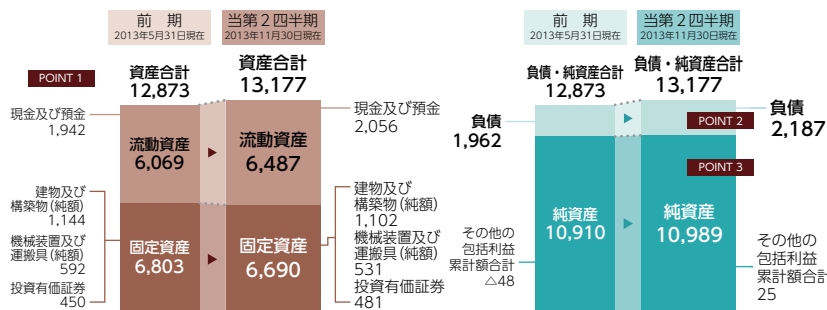
ブースでの説明風景



商談会の会場風景

■ 連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



POINT 1

資産の変動

流動資産は、有価証券が3億1千万円増加し、棚卸資産が5千3百万円減少したこと等により、前期末比で6.9%増加いたしました。
固定資産は、投資有価証券が3千万円増加し、建物及び構築物が4千1百万円、機械装置及び運搬具が6千万円、投資不動産が3千3百万円それぞれ減少したこと等により、前期末比で1.7%減少いたしました。

POINT 2

負債の変動

流動負債は、未払法人税等が1億1千3百万円、短期借入金が3千7百万円増加し、受注損失引当金が1千1百万円減少したこと等により、前期末比で9.4%増加しました。
固定負債は、長期借入金が8千7百万円増加したこと等により、前期末比で14.8%増加いたしました。

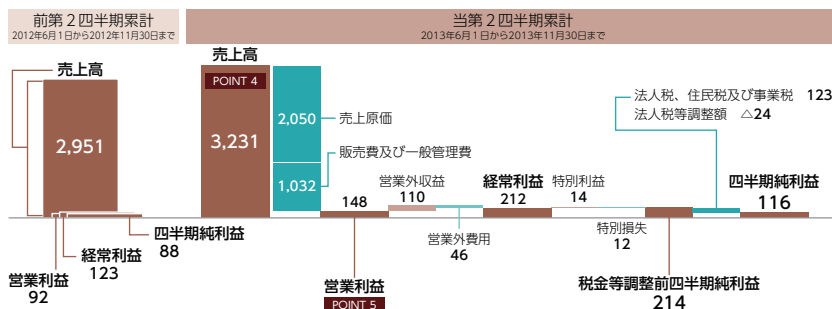
POINT 3

純資産の変動

純資産は、前期末比で0.7%増加し、自己資本比率は83.1%となりました。

■ 連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



POINT 4

売上高の動き

世界市場の緩やかな景気回復傾向を背景に、大学・独立行政法人向けの研究開発分野においては、光学素子製品の需要は増加傾向にあります。民間企業向け研究開発分野及び産業分野においては、研究開発投資・新規設備投資ともに依然慎重な動きながらも、携帯端末市場に関連するモバイル用FPD業界やバイオ業界・医療業界向けの光学素子製品・自動応用製品や防衛産業分野向けのレンズユニット製品等の需要が増加した結果、前年同期比で9.5%の増収となりました。

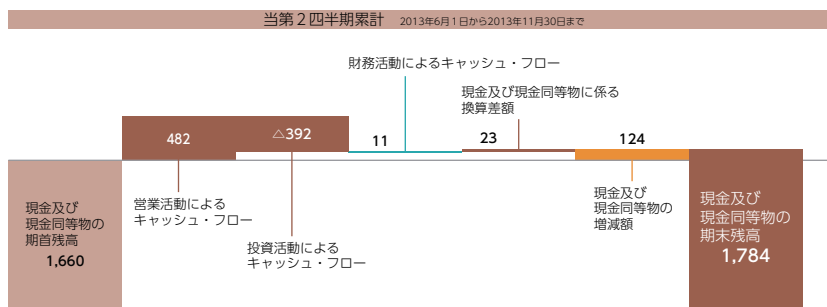
POINT 5

営業利益の動き

活発な営業展開による販売促進費や広告宣伝費等の増加もあるものの、生産の効率化、内製化の促進、購買機能の強化等による生産コストの圧縮や全般的な経費削減の取り組みにより、前年同期比で61.0%の増益となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



POINT 6

キャッシュ・フローの状況

営業CFは、売上債権の増加により減少するも、税前純利益の増加、棚卸資産の減少及び未払消費税（預り金）の増加、法人税等の還付による増加等により増加いたしました。
投資CFは、有形無形固定資産の取得により減少いたしました。
財務CFは、配当金の支払により減少するも、借入資金の純増加により増加いたしました。

■ 株式の状況 (2013年11月30日現在)

- ①発行可能株式総数 32,000,000株
 ②発行済株式の総数 7,811,728株
 ③株主数 3,236名
 (前期末比72名増)
 ④主要株主

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	13.27
森 聡二	718	9.54
シグマ光機取引先持株会	434	5.76
シグマ光機従業員持株会	238	3.17
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.69
富国生命保険相互会社	200	2.65
竹田和平	168	2.23
株式会社サンライズクリエート	164	2.18
竹田本社株式会社	152	2.02
杉山大樹	146	1.93

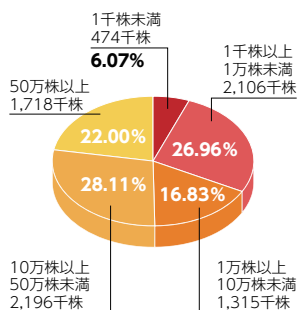
- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 3. 持株比率は、自己株式 (279,328株) を控除して計算しております。

■ 会社概要 (2013年11月30日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年(昭和52年)4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	345名
役員	代表取締役社長 森 聡二 代表取締役専務 近 藤 洋 介 取締役 水 村 峯 夫 取締役 原 口 康 史 取締役 山 口 秀 一 取締役 菊 池 健 夫 取締役 田 坂 隆 昌 取締役 小 林 祐 二 常勤監査役 大 野 昭 夫 監査役 大 野 隆 久 監査役 野 崎 昭 司

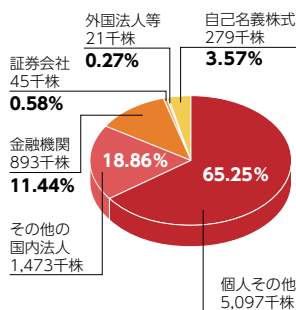
- (注) 1. 小林祐二氏は社外取締役であります。
 2. 大野昭夫氏、大野隆久氏及び野崎昭司氏の3氏は社外監査役であります。
 3. 常勤監査役 大野昭夫氏は独立役員であります。

所有株数別株式分布状況



※自己名義株式 (279千株) を含んでおります。

所有者別株式分布状況



❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

❖ 関連会社

- オプトシグマコーポレーション
- オプトシグマ ヨーロッパ S.A.S. (2013年12月登記完了)
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の中間報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

文字使用例

(従来) (今回)

S36 S36

株主メモ


事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行く。
電子公告URL <http://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。


株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<http://www.smb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **7713**

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ先「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

 **シグマ光機株式会社**
東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

UD
FONT

